

平成20年度「基礎・基本」定着度調査の結果概要

1 調査の概要

(1) 調査の趣旨・目的

学習指導要領において身に付けることが求められている基礎的・基本的な内容について、全県的な調査を行い、客観的なデータに基づき定着度の状況を把握することにより、各学校等での指導法改善の取組を支援し、児童生徒の基礎学力の向上を図る。

(2) 調査の重点

新学習指導要領で「知識・技能の習得とそれらの活用」「言語活動の充実」等の方向性が示される中、本県が全国学力・学習状況調査結果で同様の課題をもつことを踏まえ、解答を選択式から記述式に変えたり、図表を読み取って説明したりするなど、活用に関する問題をより多く取り入れた。

(3) 調査の実施日 …… 平成21年1月15・16日

(4) 調査の対象等 (県内の全公立小・中学校が対象。調査人数は、欠席等により各教科、設問によって異なる。下記は最大値)

校種	学年	調査内容	実施校	児童生徒数
小学校	第5学年	国語, 社会, 算数, 理科	586校	15,720人
中学校	第1学年	国語, 社会, 数学, 理科, 英語	253校	15,282人
	第2学年	国語, 社会, 数学, 理科, 英語	254校	16,188人

(5) 調査結果の活用

調査結果や指導法改善資料を載せた「結果概要」や学校・家庭で活用できる学習ガイド「鹿児島ベリック」(中学生:基礎編),「鹿児島チャレンジ」(小学生:活用編)を作成し、県内すべての公立学校及び市町村教育委員会等へ配布するとともに、県のWebページにも掲載して、各学校の基礎学力定着の取組を支援する。

2 結果の概要

- 調査の重点により活用に関する問題を増やしたことで、全体的に平均通過率が下がった。全般的に、基本的な語彙・語句、事物・現象の理解など、知識に関してはある程度定着しているが、図表の読み取り、作図等による表現、実験の方法や処理など、技能の定着に関しては不十分である。
- 今回、記述式を増やしたことで、無解答の傾向が顕著に見られた。今後、全教科で言語活動の充実に進めることが大切であり、体験から感じ取ったことを表現したり、事実を正確に理解し伝達したりする学習、概念・法則・意図などを解釈し、説明したり活用したりする学習など、思考力、判断力、表現力を総合的に育てていくための取組が必要である。

【国語】

学年	平均通過率 (%)				
	H16	H17	H18	H19	H20
小5	86.5	78.7	75.4	70.8	76.8
中1	75.6	65.2	72.3	72.9	63.7
中2	81.7	70.6	70.9	81.7	66.1

- 読み取った内容に自分の考えを加えて書く問題では、これまでの取組の成果が見られる。
- 中学校においては、十分な思考・判断を要する聞き取りや構成の力と、そのために必要となる語彙の拡充を図っていく必要がある。

【社会】

学年	平均通過率 (%)				
	H16	H17	H18	H19	H20
小5	77.5	73.5	81.3	77.7	72.0
中1	59.3	58.9	63.3	73.0	65.6
中2	63.3	63.1	66.9	72.4	62.6

- 社会的なものの見方、考え方を支えるための基本的な知識・理解が向上しつつある。
- 資料を効果的に活用し、社会的事象の特色や関連を解釈、説明する力が不十分であり、思考力、表現力を育てる取組が必要である。

【算数・数学】

学年	平均通過率 (%)				
	H16	H17	H18	H19	H20
小5	81.5	72.6	73.2	79.1	73.9
中1	64.8	72.3	67.5	73.9	68.0
中2	62.9	66.8	68.8	68.8	65.7

- 数の計算や図形の意味や性質について、繰り返しの演習による確実な定着が図られている。
- 言葉や式、図、グラフ等の読み取りが不十分であり、その相互の関連を筋道を立てて体系的に思考させる指導の充実が必要である。

【理科】

学年	平均通過率 (%)				
	H16	H17	H18	H19	H20
小5	76.9	76.1	72.8	76.1	73.7
中1	63.9	66.0	64.8	68.2	67.3
中2	56.9	66.9	63.4	57.4	62.6

- 実感しにくい物理的な現象や誤概念に陥りやすい生物の分類などの理解が改善されつつある。
- 基本的な観察・実験技能の習得が不十分である。学習した自然の事象と生活とのつながりについて理解を深めさせる手だてが必要である。

【英語】

学年	平均通過率 (%)				
	H16	H17	H18	H19	H20
中1	(58.8)	(55.7)	68.5	69.1	72.5
中2	(59.5)	(52.6)	58.3	59.0	60.0

- 「聞く」「読む」「書く」領域について出題した。概要・要点を把握したり、内容の詳細を確認するなどの理解する力は定着してきている。
- 言語の使用場面を考慮し、適切な英文を作る力や単語等を正確に書く力に課題が残る。

*英語は、平成18年度以降、採点の観点が異なる。

() のH16, 17年度分は参考表示。

